



FP Topics

= 効率的な資金の準備方法 =

2020年7月号

7月も終わろうとしています。今年はコロナ禍の影響もあり、例年よりさらに時間の経過が早く感じられます。みなさんは如何でしょうか？私自身、ここ数ヶ月久しぶりに少しゆっくりできた感があります。何とか暇なしを地でいっていたのですが、最近は何とか暇ありになり、少し出世しました・・・

少し時間ができたので、ホームページのリニューアルを進めていたのですが、なにかとバタバタしてしまい、思うようにはいかないものです。まだまだこれから手を入れていかなければいけません、一応リニューアルできましたので、時間があるときに一度訪問してみてください。

前置きが長くなりましたが、今月は《効率的な資金の準備方法》を取り上げてみました。

資金の準備

効率よく資金を準備するという事は、必要なお金を上手に用意するという事です。その調達方法にもいろいろな方法がありますが、大きく分けると『借入れる』方法と『自分でこつこつ準備』する方法に分けられるのではないのでしょうか。

教育資金や老後資金のように比較的大きな資金を準備する場合は、ある程度計画的に準備を進める必要があります。教育資金については、どうしても不足する場合、教育ローン等（保護者が負担する場合）の借入を検討するでしょう。やむを得ないのですが、やはりお金を借りるということは、お金のレンタル料金“借入利息”を支払うことになります。

老後資金については、基本的に借入れるという概念はありません。やむを得ず資金を借入れる場合は、必ず何かしらの担保を要求されますので、結局自身の資産の範囲内ということになるのが基本です。

なかなか難しいとは思いますが、何かの資金を準備する際、その資金準備にかかるお金を効率よく計算できるツール【資金計画に役立つ6つの係数】をご紹介します。

《減債基金係数》

ライフプランやリタイアメントプランを作成する際、たいへん便利な6つの係数というものがあります。このうち、今回は資金準備に役立つ係数《減債基金係数》をご紹介します。聞きなれない小難しい言葉のように感じられますが、たいへん便利な計算ツールですのでご期待ください！

この係数は、 $[\text{年利} (**\%) \text{ で運用し} ** \text{年後に希望する金額を準備するために毎年積み立てる金額}]$ を計算することができます。

= 具体例 =

～300万円の車を購入する場合～

- ・ファミリーカーを購入するための必要資金300万円を年利3%で運用しながら5年で準備するには、毎年積み立てる金額はいくら？

$$\text{年} : 3,000,000 \text{円} \times 0.18835 = 565,050 \text{円}$$

$$\text{毎月} : 565,050 \text{円} \div 12 = 47,087.5 \text{円}$$

※上記、減債基金係数 0.18835 を使用して、年3%で運用しながら、5年で300万円を準備するためには、年間565,050円必要と計算されました。毎月（12で割ると）47,087.5円です。



《自動車ローンの場合》

具体例は、比較的大きいお金で、資金調達方法の比較として解り易い事例として車の例を取り上げました。具体例の場合、少なくとも5年前から車の購入を計画する必要があります。計画的な資金計画ということでお話を進めていきます。

自動車ローンで車を購入する場合、大きく分けて銀行と信販会社系の2つから選択することになるようです。平均的な金利は銀行系で1%~3%。信販系で3%~10%あたりのようです。中古自動車の場合、もう少し金利は高くなります。

~300万円の車を年利3% 5年で返済する場合~

※総返済額 3,234,333円 利息 (234,333円)

= 資金調達の比較 =

300万円の車を購入する場合、係数を利用して計画的（効率的）に資金を準備する場合と、借入（ローン）を利用する場合のキャッシュフローに与える影響を比較してみます。

- ・ 300万円を年利3%で運用しながら5年で準備した場合

年 : 565,050円 × 5年 = 2,825,250円

- ・ 300万円を年利3% 5年で返済する場合

総返済額 3,234,333円 利息 (234,333円)

= 差額 =

3,234,333円 - 2,825,250円 = 409,083円

計画的に資金を準備する場合と借入による場合の比較をしてみました。どうしても準備できない場合はやむを得ないのですが、資金準備を計画できる場合には今回ご紹介した《減債基金係数》を上手に使って準備していただきたいと思います。今回の比較では、年利率及び準備（返済）期間を3%と5年で合わせました。年3%の運用利率の根拠は、投資信託等を利用して《長期積立分散投資》での運用の場合の平均的な利回りは3%~4%程度とされています。《減債基金係数》表については、グーグル等の検索サイトで《減債基金係数》で検索していただければヒットします。

~今月の山便り~

今月から数回にかけて北アルプス槍ヶ岳の“北鎌尾根”をご紹介します。いきたいと思います。

槍ヶ岳には4つの稜線が交差しています。折立~黒部五郎岳~双六岳方面からの“西鎌尾根”、先月号でご紹介した表銀座と称される“東鎌尾根”、そして大キレットと呼ばれる難所を通過する穂高方面からの尾根。この3つの尾根はしっかり整備された一般道とされているポピュラーな登山道です。そして最難関が“北鎌尾根”とされています。北鎌尾根は一般の登山道ではなく、登山黎明期からのクラシックルートとして有名なバリエーションルートです。加藤文太郎氏や松濤 明氏の遭難はたいへんドラマチックで壮絶な山行として記録されています。一般的な登山を志す人の最終目標と言っても過言ではないと思います。基本的には稜線歩きですが、基本的な岩登りの技術やセルフビレイ（自己確保）簡単なザイルワークの知識は必要となってきます。ルートファインディングの技術は必須です。

そして、急な天候の変化や急激な気温の変化にも対応できなければなりません。北鎌尾根に取り付いてしまえば、エスケープルート（逃げ道）は存在しません。必ず自分の力で帰って来なければならないのです。稜線上に上がってしまうと、水の補給もできません。ライフラインは自分の両肩にかかっています。毎年遭難者は後を絶ちません。

わたしたちのパーティーも一度、実力不足の単独行者を救出したことがありました。という私も初めて北鎌尾根を歩いた時（本気登山を卒業後）準備不足もあり、疲労と急激な体温の低下で歩行がままならず、同行していた私の山の師匠に助けられながら槍ヶ岳肩の小屋にたどり着いた経験があります。

真っ暗闇の中での大槍の登攀になりましたが、あまりに疲労していてほぼ記憶がありません。写真は独標を超えたあたりからの遠望だと思っています。あの稜線を歩いて・・・あの槍の穂先を超えるのかと考えると気が遠くなったのは記憶しています。

